

令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 開催日時：令和7年2月26日（水） 16:00～17:10

2 開催場所：池田高等学校 校長室

3 出席者

協議会委員

中西 周次	学識経験者	大阪大学教授
田渕 正樹	学校の運営に資する活動を行う者	同窓会会长
鍋島 浩	学校の運営に資する活動を行う者	後援会会长
畠中 伸一	地域住民	石橋中学校長
太田 高正	地域住民	吳羽会自治会会长
藤井 智宏	保護者	P T A会長

教職員

尾上 大	校長
津田 佳弘	事務局長（教頭）
木村 裕	事務局員（事務長）
川田 明寛	事務局員（首席）
中野 亮平	事務局員（首席）

4 内容

- (1) 令和6年度学校経営計画の評価案（達成状況）について
- (2) 令和7年度学校経営計画の計画案について
- (3) 保護者からの意見調査の現状報告について — 問合せなし

5 協議事項

- (1) 令和6年度学校経営計画の評価案（達成状況）について

校長より、配付資料に基づき進捗説明

(1) 令和6年度 学校教育自己診断結果

標記について、校長の尾上より説明。

- 1) 年始に〆切で、生徒・保護者・教員に対して学校教育自己診断アンケートを実施した。

生徒・保護者の回答

- ・昨年度比で、肯定率が上がったものが多く、（生徒）は18項目中11項目で向上、現状維持を含めると18項目中16項目。（保護者）は17項目中9項目で向上、現状維持を含めると、17項目中12項目。
- ・特に、「池田高校に進学して（進学させて）よかったか？」の項目は、（生徒）（保護者）とも最高水準で（生徒）95%、（保護者）96%

- ・一方で、顕著に低く出ているのが、（保護者）の「学校の HP をよく見る」で、ここ数年、ほぼ一貫して低下で、「HP の位置づけ」を含めて検討の必要があると考えている。
- ・（生徒）の方では、「自主学習時間の平均（週休日を含めて）は 2 時間以上」の肯定率が、4 年連続してほぼ横ばいの「45%」。学年別で出すると、さすがに 3 年生の数値は高くなるが、それはすなわち、1・2 年生の数値が低くなることを意味し、課題と感じている。スタディサプリを全学年に導入し、効果的な活用を促すなどして、高まる傾向もみられるものの、「自習時間」は課題である。
- ・このことと関係があるかもしれないが、「勉強とクラブの両立」が、高くなる傾向にはあるのですが、「70%」台と、「高い」とまではいかない状況。「2 年生まではクラブがメイン」というのも一つかと思うが、もう少し高くてもよいのではと思う。

教員の回答

- ・昨年度と比べて、ほとんどの項目で、肯定率が下がっているのは、きちんと受け止めなければいけないと思っている。
- ・ただ、2 年前、3 年前と比べると、逆に、今年がほとんどの項目で上回っていて、そうして考えると、1 年前が突出して顕著に肯定率が高く、「1 年前」のポイントを参考にする必要があるのかと思っている。
- ・過去 4 年で今年度が顕著に低いのは、「他の教員の授業の見学回数」で、回答率 52% の中で、「2 回以上」は 47%。アンケート後に授業見学が大きく増加したため、最終的には例年並みとなった。

(2) 授業アンケート結果

標記について、校長の尾上より説明。

- ・2学期末に全生徒に対して実施した。
- ・全体的な肯定率については、前回、前々回と全く同じ値であった。
- ・特に、「授業分析（授業を振り返って授業改善に活かしている／適切な評価）」は、1回目と同様、過去最高値であり、日ごろからの、先生方の授業づくりに向けての努力の表れだと思う。
- ・一方、学校経営計画では、「自習時間の向上」「主体的、対話的で深い学びのある授業」、総じて、生徒の自主性を引き出せるような授業を目標にしているが、これにかかる「生徒取組1（主体的に取り組んでいるか）」は、1回目（1学期末）を上回っているものの、過去4年の平均には及んでいない。

(3) 令和6年度 学校運営計画評価

標記について、校長の尾上より説明。

- ・前回、第2回の学校運営協議会の時に途中経過を見ていたいたが、今回は、最終的な数値。

「1 生徒一人ひとりの資質・能力を伸ばす」

- ・スタディサプリの利用時間について、学年によって差異はあるものの、3年生は高めに、1年生は去年の1年生より高めに出ており、利用時間は伸びる傾向にある。
- ・「自習時間」は、昨年度並みではあるが、45%以上には、なかなかならない。

「2 「志」の育成と生徒全員の進路保障実現」

- ・夏休み期間に校内予備校を初めて実施した。特に、1・2年生において、当初の予想よりも多くの希望があり、実施後のアンケートによると、満足度も高かった。
- ・「キャリア教育」との関係で、今年度から、リクルート社の「みらい辞典」を導入し、現代的なり多くの職業を知る機会をつくり、そこから「どんなことを学ぶ？（どんな学部？）」「自分の適正は？」といったことを考えるきっかけを作った。

「3 総合的な『人間力』育成」

- ・コロナ禍で中断し、昨年度から復活した「国際交流」を、今年度も実施し、3月にオーストラリアへ出発する。定員を増やしたが、今年度もそれを上回る希望者があり、抽選で参加者を決定した。
- ・部活動について、例年と同様に高い加入率となっており、今年度は94%となっている。前回説明した「体育館の床の張替え工事」が、2月の頭に無事終了した。この間の体育館使用クラブ（バスケットボール・バレー・バドミントン）の活動について、校内での陸上トレーニング以外は、連日、池田市立の体育館を借りたり、近隣の学校と合同練習をしたりと活動場所を確保した。本校の後援会にもお支えいただいている。

「4 安全で安心な学校生活・広報体制の充実」

- ・「大阪府母校応援ふるさと納税制度」の寄付金により、昨年度いただいた寄付金でグラウンド照明を2機、今年度いただいた寄付金でグラウンド整備器具を購入した。今後、こちらも後援会にお支えいただき、照明をもう1機つけさせていただく予定。
- ・府立学校全体の取組でもある「働き方改革」について、「教職員一人当たりの時間外在校等時間」は、昨年度比で「同水準」と書いているが、正確には「減少」している。ただ、今年度、「学校全体の校務システムの入れ替え」や「多様な学習ニーズに対応した学び」など、例年ない業務が多く生じた関係で、一部の教員の負担が増大してしまう傾向があった。このこととも関係して、「ストレスチェック」の値が悪化。次年度の課題と考えている。

議事(1)～(3)について質問や意見

- ・校内予備校の費用はどこから出ているのか。（中西）
→ 受講生徒で分割して支払っている。相場と比較して金額は安い。（尾上）
- ・校内予備校の取り組みは先生方の気持ちとして複雑ではないか（中西）
→ 普段と違う角度の授業を生徒に体験してもらう機会と捉えている。（尾上）
- ・アンケート結果は年度ごとの折れ線グラフ等の方が見やすいのではないか。また、因果関係を見つけるのがアンケートの目的。例えば、アンケート内容は変えずとも、項目をアクションに関するものと結果に関するものに分類すれば、因果関係は見いだせるのではないか。分析はChatGPTに任せることもできる。（中西）
- ・いじめは今もあるのか（中西）
→ 捉え方が広くなっているのもあって、無いと言い切ることはできない。アンケートの記述欄には「そもそもいじめを見たことがないため、対応を5段階で評価することができない」という声もあった。（尾上）

(4) 令和7年度学校運営計画案

標記について、校長の尾上より説明。

- ・「めざす学校像」について、昨年度、この会でのご意見もいただき、手をいれたものから変更なし。
- ・中期的目標は、複数年継続するものという考えなので、こちらも変えていない。
- ・以下の項目についても、文言そのものを大きく変えるものではなく、それぞれの内容の充実をはかっていかなければと考えている。

「1 生徒一人ひとりの資質・能力を伸ばす」

- ・今年度は、1000万円の「DXハイスクール事業」交付金で、3DプリンタやハイスペックPCを購入するとともに、大学等の先生を招いて「教員向けの研修」を実施した。
- ・次年度、「総合的な探究の時間」や「総合科学」の授業の中で、実際にデータを扱った探究的な活動を行っていく予定。それに向けて、DXハイスクール事業について継続の申請をした。今回、継続可と認められれば、500万円の交付金がいただける。

「2 「志」の育成と生徒全員の進路保障実現」

- ・「校内予備校」を次年度も実施を予定している。ただ、先生方の行う「夏期講習」等の講習は、これはこれで有効であるため、どちらかということではなく、並行して行いたい。また今年度、3年生の希望者が最も少なかったことにも鑑みて、今のところ1・2年のみの実施を考えている。

「3 総合的な『人間力』育成」

- ・ニュース等で報じられたが、府として、「国際交流」に注力し、R7年度から3年間かけて、全府立高校が「姉妹校提携」をすることや、国際交流に対して「財政的な支援」を行うとしている。本校は、既に海外研修を実施してはいるが、「姉妹校」のことも含め、次年度、今後の方向性は定めていかなければならない。

「4 安全で安心な学校生活・広報体制の充実」

- ・学校教育自己診断のアンケートで、低下傾向が顕著な「HP」について、てこ入れを行っていきたい。「保護者向け」と「入試広報（中学生向け）」の両面が混在しており、その部分の整理が必要。かつ、基本的なことだが、情報の更新頻度が低いので、その改善策も考える必要がある。

(4)について質問や意見

- ・教員用の端末はそろっているか。(田渕)
→ おおむねそろっている。(尾上)
- ・DXハイスクール事業について他校の事例はわかるか。(中西)
→ 機器の購入でなく、施設見学のための旅費や講習費に交付金を使用した学校もある。多くの学校は総合探究の授業に関連して取組を進めている。(尾上)
- ・DXハイスクール事業で、国としては、理数系人材の増加や情報等の成長分野に人材を送り込んでいくことを旗振りしているが、大学から見て、DXの観点から、どのような力を身につけた学生が必要と考えるか(尾上)
→ 専門が化学なので情報とは離れているが、取り入れなければいけないとは考えている。正直なところ、あまり意識はしていない。(中西)
- ・海外研修について、定員50人の上限は何を基準に決めたのか。(中西)
→ 添乗員の人数や、受け入れ先の学校の事情から判断している。定員を増やしたいとは考えているが、そうすると1人当たりの金額も上がってしまう。(中野)
- ・HPの整理や更新にDX事業の500万円を使うことはできないか。見た目の変更だけであれば100万円ほどで可能。また、保護者案内をHP上で行えばHPの訪問率は100%になるのではないか。(中西)
→ 昔は出欠連絡をHP上で行っていたため閲覧率も高かったように思う。自分も教員時代にHPの更新を担当したが、他の業務との両立は難しかった。HPを見ても代わり映えしなければ見る人は減る。一方で受験生はよくHPを見ているので、学校説明会でHPに関してアンケートを取ってはどうか。(鍋島)
→ HPの中身を入れ替えないと見る人はいなくなるが、HPの更新は負担が大きい。予算が許せば業者に依頼するのもよいと思う。(太田)
- ・学校の財源は公費と寄付のみなのか。(中西)
→ それ以外から営業等を受けて金銭を受け取ることはできない。(木村)
→ 後援会からの寄付という形なら問題ないのではないか。(鍋島)
→ ふるさと納税制度は今後も利用を継続していくか。(田渕)
→ その予定です。(尾上)
→ 同窓会で寄付を募ってはどうか。(田渕)
→ 財源によって用途が限られるため、学校がフレキシブルに使えるように、同窓会・後援会・ふるさと納税のあまり分散させない方がよいと思う。(鍋島)
- ・私立無償化の影響で私立高校に対するアドバンテージがなくなり、定員割れする公立高校も多い。池田高校が定員割れすることはないと思うが、なにか差別化できる強みを打ち出すべきだ。例えば、クラブと勉強の両立を通して、社会でも求められているマルチタスクを身につけられるなど。関連して、クラブ加入率は、以前はもっと高かったようだ。クラブに加入していない数%のフォローも考えていく必要がある。(鍋島)

(1) 令和6年度学校経営計画の評価案（達成状況）について

校長より、配付資料に基づき進捗説明

- 1) I C T 活用 - 多くの生徒が chromebook を効果的に活用できている。(学校教育自己診断の結果に基づく)
- 2) 授業改善 - 多くの生徒が、授業内で自分の考えをまとめたり、発表したりすることがよくある。(授業評価アンケートの結果に基づく)
- 3) 自学自習 - スタディサプリの活用等を通して、自学自習時間は少しづつ上昇傾向にある。校内に暖房利用可の自学自習スペースを整備した。
- 4) 進路指導 - 令和 6 年度に「校内予備校企画」を実施することを決定した。
- 5) 生徒指導 - 今後、生徒が納得できる生徒指導を心がけていく。
- 6) 学校行事 - 体育祭・文化祭はコロナ禍前の規模で開催できた。今後も、生徒の成長に資する学校行事の充実を図る。
- 7) 国際理解 - 豪州語学研修を 4 年ぶりに再開、定員 40 名を超える応募、抽選による選抜を実施した。
- 8) 施設改修 - 体育館の排水設備改修・空調設備設置を実施、令和 6 年度の床改修計画を策定した。「大阪教育ゆめ基金」ではグラウンド照明 3 基設置の見込みが立った。
- 9) 情報発信 - 中学生向けのホームページを新設した。学校公開行事では昨年度比で参加者 200 人増を達成した。

以下、質疑応答。

委員生徒向けアンケートの実施方法はどのようなものか。また、アンケート結果は数字の小さな変化にとらわれ過ぎず、大きなトレンドを掴むことが重要ではないか。

学校Google フォームを活用し、学校でも自宅でも回答できるようにしている。結果の解釈についてはご意見を今後の参考にする。

委員公立高校での「校内予備校企画」は可能であるのか。

学校東京都立高校では複数校で実施されており、府立高校でも本校を含めて実施検討が具体的に始まっている。大阪府教育委員会も把握している企画である。

(2) 令和 6 年度学校経営計画の計画案について

校長より、配付資料に基づき計画案を説明。

- 1) めざす学校像 - 新たに定めたスクール・ミッションに応じた文言修正を行った。
- 2) I C T 活用 - 文部科学省の D X ハイスクール事業への応募を行い、校内 I C T 環境のさらなる整備を図る。
- 3) 授業改善 - 全ての教科で「思考力・判断力・表現力を育む学習」の取組みを進める。
- 4) 進路指導 - 夏季休暇期間を利用した「校内予備校企画」を試行実施する。
- 5) 人権学習 - 「いじめのない集団作りを推進する」旨を文言追加した。
- 6) 学習と部活動の両立 - 「生徒自身の自己管理能力を高めるための支援を行う」旨を文言追加した。
- 7) 教育相談 - 令和 6 年 4 月に予定される学校教育法施行規則の一部改正を受けた、I C T を活用した不登校生徒への支援の具体化を進める。
- 8) 学校施設 - 引き続き「大阪教育ゆめ基金」事業を進め、グラウンド照明整備を行う。

- 9) 働き方改革 - 「大阪府における部活動等の在り方に関する方針を遵守する」旨を文言追加した。
- 10) 情報発信 - 中学生対象の学習塾等への情報提供や連携活動を強化する。

以下、質疑応答。

委員DXハイスクール事業の補助対象や採択基準など、詳細を説明してほしい。

学校I C T機器などの購入費や外部講師費、本校教員の研修旅費などの費用が補助対象である。文部科学省が提示する項目ごとに配点されており、総点が高い学校が採択されると聞いている。

委員採択の成否は、他校との差別化ができるかどうかが重要である。情報分野に限定された一般的な計画ではなく、文理融合を謳う内容を明確するなど、審査担当者の目を引く計画をまとめてみてはどうか。

学校文理融合のテーマはぜひ計画に盛り込みたい。

以上